

## 国語科（書写）

国語科（書写）について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

### 選定の観点

- 1 学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。
- 2 習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 3 生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。
- 4 生徒が我が国の伝統的な文字文化を継承し、日常生活や社会における書写の役割に気付き、多様な文字文化を大切にしようとする態度を身に付けられるような単元や活動が適切に取り上げられていること。
- 5 毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるとともに、単元内容や構成等が国語の学習とも関連付けられるなどの工夫・配慮がなされていること。
- 6 生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。
- 7 系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。
- 8 表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

## 国語科（書写）

### 調査研究の結果の概要

#### ■東京書籍「新編 新しい書写 一・二・三年」

書く姿勢、筆や鉛筆の持ち方、用具の扱い方や必要な作法が写真等で示されており、生徒が円滑に学習に取り組めるよう工夫されている。文字を正しく整えて書くための知識及び技能が、「書写のかぎ」として示されており、学習を進めるに当たってどのようなことに留意するかが明確であるとともに、「とん・すう・ぴたっ」など、リズムや筆圧を示す擬音語や、穂先の通り道や筆脈等が図やカラーで示されるなど、生徒が視覚的に課題を捉えやすいよう工夫されている。

硬筆学習は、毛筆学習と連動して設定されており、「見つけよう」「生かそう」や書体のまとめ活動等において、硬筆学習の課題が設定されるなど、生徒が毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるよう工夫されている。

各単元の「振り返ろう」で、わかったことや考えたことを話し合ったり、自分が書いた字を説明したりする学習活動が用意されている。また、「生活に広げよう」として、学んだ内容を他の文字にどのような生かせばよいかを考えて書く活動が取り入れられているなど、知識及び技能の定着に留まらず、生徒が効果的・効率的に思考力、判断力、表現力等を身に付けられるようよく工夫されている。

巻末の「書写活用ブック」では、手紙、はがきの書き方に加え、時候の挨拶、ポスター、入学願書や送り状、のし袋、原稿用紙など、多様な実例が紹介されており、書写の学びを日常生活に役立てるよう工夫されている。

#### ■三省堂「現代の書写 一・二・三」

書く姿勢、筆や鉛筆の持ち方、用具の扱い方や必要な作法が写真等で示されており、生徒が円滑に学習に取り組めるよう工夫されている。文字の具体的な書き方が、「書き方を学ぼう」として示されており、どのようなことに留意しながら学習を進めるとよいかが明示されているとともに、筆圧の違いや穂先の通り道などの学習ポイントが、図やイラストなどで大きく示されているなど、生徒が視覚的に課題を捉えやすいよう工夫されている。

毛筆学習の後に硬筆学習の課題が設定されており、また、「書いて身につけよう」として、生徒が毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるよう工夫されている。

各単元「書き方を学ぼう」で、その学習で生徒が着目すべき書き方のポイントや内容が、ひと目で分かるよう構成が工夫されており、「書いて身につけよう」で学習したことを、主体的に活用する力を付け、効果的に思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫されている。また、話し合いの課題が学年末に設定されており、どのようなことについて考え、話し合うのかが具体的に示されるなど、対話的な学びに取り組みやすいよう工夫されている。

巻末の資料編では、手紙やはがきの書き方に加え、入学願書や送り状、のし袋、原稿用紙など多様な実例が紹介されており、書写の学びを日常生活に役立てるよう工夫されている。

#### ■教育出版「中学書写」

書く姿勢、筆や鉛筆の持ち方、用具の扱い方や必要な作法が写真等で示されており、生徒が円滑に学習に取り組めるよう工夫されている。単元ごとに、学習内容を確認するための書き込み欄

が多く用意されており、基礎的・基本的な知識及び技能の習得が促されている。また、筆圧の違いや穂先の通り道、筆脈などの学習ポイントが、部分の拡大手本及び手のイラストや筆使いの写真で示されているなど、生徒が視覚的に課題を捉えやすいよう工夫されている。

各単元の「試し書き」から「生かそう」につながる学習の流れの中で、硬筆学習の課題として書体の特徴の確認等が設定されており、また、「学習を生かして書く」として、生徒が毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるよう工夫されている。

3年生の終わりには、自分で課題を選択する単元が設定されており、また、1、2年生では、筆使いや書き方等の学習で気付いたことを記入する欄が設けられるなど、目的意識や相手意識をもって思考・表現することが促されているなど、生徒が思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫されている。

巻末の「書式の教室」では、手紙やはがきの書き方に加え、入学願書や面接シート、送り状、のし袋、原稿用紙などに加えて、電子メール、エアメールの書き方についても扱い、多様な実例が紹介されており、書写の学びを日常生活に役立てるよう工夫されている。

#### ■光村図書出版「中学書写 一・二・三年」

書く姿勢、ICT機器を使う姿勢、筆や鉛筆の持ち方、用具の扱い方や必要な作法が写真等で示されており、生徒が円滑に学習に取り組めるよう工夫されている。各単元の学習ポイントを示す「学びのカギ」によって、どのようなことに留意しながら学習を進めるのかが明確になっている。また、「トン・スー・トン」などリズムを示す投げかけとともに、穂先の通り道や筆脈、筆圧などが図やイラスト、筆使いの写真などで示されているなど、生徒が視覚的に課題を捉えやすいよう工夫されている。

別冊として、硬筆学習の学びを深めるための「書写ブック」が用意されており、また、各単元の「生かそう」にも、硬筆学習の課題が設定されるなど、生徒が毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるよう工夫されている。

各単元が「考えよう」「確かめよう」「生かそう」というひと目でわかる構成で統一されている。特に、「考えよう」では、話し合い活動等が提案されるなど、知識及び技能の定着はもとより、文字の原理原則について考えたり、表現したりする活動や振り返り活動を通して、生徒が段階的に思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫されており、優れている。

「日常に役立つ書式」として一章が設けられており、手紙やはがきの書き方に加え、入学願書や送り状、原稿用紙など多様な実例が紹介されており、書写の学びを日常生活に役立てるよう工夫されている。また、メールやプレゼンテーション、タッチペンでの署名、デジタル付箋といった、デジタルの文字文化についても例を示すだけでなく、赤字でポイントを示している点が優れている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書
1	学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。	1 基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた工夫		○	○	○	○
		2 指導事項(学習のめあてや振り返り活動等)の明示		○	○	○	○
2	習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。	1 習得した知識及び技能の活用を促す工夫		○	○	○	○
		2 問題解決的な学習や言語活動の充実の工夫		○	○	○	○
		3 思考力、判断力、表現力等の育成に向けた工夫		◎	○	○	◎
3	生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。	1 探究意欲を高め、主体的・対話的に学ぶための工夫		◎	○	○	◎
		2 発展的な学習活動につながる工夫		○	○	○	○
		3 ICT機器を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫		○	○	○	◎
4	生徒が我が国の伝統的な文字文化を継承し、日常生活や社会における書写の役割に気付き、多様な文字文化を大切にしようとする態度を身に付けられるような教材や活動が適切に取り上げられていること。	1 多様な文字文化を大切にできる態度の育成に向けた工夫		○	○	○	◎
		2 日常生活に役立てるための工夫		○	○	○	◎
5	毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるとともに、教材内容や構成等が国語の学習とも関連付けられるなどの工夫・配慮がなされていること。	1 硬筆と毛筆の学習のつながり		○	○	○	○
		2 国語科の教科書との関連		○	○	○	◎
6	生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。	1 人権教育の推進		○	○	○	○
		2 道徳教育の推進		○	○	○	○
7	系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。	1 単元構成の系統性・発展性		○	○	○	○
		2 他教科や教育課題等との関連		○	△	○	○
		3 他校種との接続		○	○	○	○
		4 家庭・地域との連携		○	○	○	○
8	表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1 文字や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさ		○	○	○	○
		2 ユニバーサルデザインの視点		◎	○	○	○
		3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫		○	○	○	○
		4 用紙、インク等の環境面への配慮		○	○	○	○

【国語（書写）】観点別資料

【選定の観点1】

学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
	<p>○書く姿勢、筆や鉛筆の持ち方、用具の扱い方や必要な作法が写真等で示されており、生徒が円滑に学習に取り組めるよう工夫されている。文字を正しく整えて書くための知識及び技能が、「書写のかぎ」として示されており、学習を進めるに当たってどのようなことに留意するかが明確であるとともに、「とん・すう・びたっ」など、リズムや筆圧を示す擬音語や、穂先の通り道や筆脈等が図やカラーで示されるなど、生徒が視覚的に課題を捉えやすいよう工夫されている。</p> <p>○各単元で学習目標が明示されているとともに、学習ポイントが「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」というステップで段階的に提示されている。また、単元末の「振り返ろう」ではポイントが示されていたり、生徒が学習したことを説明するなどして、対話的に振り返ることができるよう工夫されている。</p>	<p>○書く姿勢、筆や鉛筆の持ち方、用具の扱い方や必要な作法が写真等で示されており、生徒が円滑に学習に取り組めるよう工夫されている。文字の具体的な書き方が、「書き方を学ぼう」として示されており、どのようなことに留意しながら学習を進めるといかが明示されているとともに、筆圧の違いや穂先の通り道などの学習ポイントが、図やイラストなどで大きく示されているなど、生徒が視覚的に課題を捉えやすいよう工夫されている。</p> <p>○各単元で学習目標が明示されているとともに、書き方のポイントを示した後に、そのポイントが他の文字ではどこに使われているかを考えてから毛筆で書くというステップで構成されており、生徒が見通しをもって学習を進めていく上で、効果的である。また、毛筆練習の単元末に、「振り返り」のポイントが示され、硬筆練習では「振り返ろう」の書き込み欄があることで、生徒が自身の学びを自覚化できるよう工夫されている。</p>	<p>○書く姿勢、筆や鉛筆の持ち方、用具の扱い方や必要な作法が写真等で示されており、生徒が円滑に学習に取り組めるよう工夫されている。単元ごとに、学習内容を確かめるための書き込み欄が多く用意されており、基礎的・基本的な知識及び技能の習得が促されている。また、筆圧の違いや穂先の通り道、筆脈などの学習ポイントが、部分の拡大手本及び手のイラストや筆使いの写真で示されているなど、生徒が視覚的に課題を捉えやすいよう工夫されている。</p> <p>○各単元で学習目標が明示されているとともに、「試し書き」から、「考えよう」「生かそう」というステップを踏んだ学習活動で構成されており、見通しをもって学習に取り組みやすいよう工夫されている。また、「振り返ろう」では、自己評価の欄が設けられており、生徒が自身の学習成果を自覚化することを促す工夫がされている。</p>	<p>○書く姿勢、ICT機器を使う姿勢、筆や鉛筆の持ち方、用具の扱い方や必要な作法が写真等で示されており、生徒が円滑に学習に取り組めるよう工夫されている。各単元の学習ポイントを示す「学びのかぎ」によって、どのようなことに留意しながら学習を進めるのかが明確になっている。また、「トン・スー・トン」などリズムを示す投げかけとともに、穂先の通り道や筆脈、筆圧などが図やイラスト、筆使いの写真などで示されているなど、生徒が視覚的に課題を捉えやすいよう工夫されている。</p> <p>○各単元で学習目標が明示されているとともに、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」というステップで、生徒にとって学習の流れが分かりやすい。また、単元ごとだけでなく、硬筆練習ページにもチェック欄の形で「振り返り」が設けられているなど、生徒が常に自分の学びを意識するとともに、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p>

【選定の観点2】

習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
<p>○1年生での学習の前に「これまで学んできたこと」が用意されており、小学校で習得した自らの知識及び技能をまず確認してから、中学校書写で新たに取り組む言葉や文字に対して、生徒がそれら知識及び技能を活用しながら、学習を進められる構成となっており、工夫されている。</p> <p>○各単元の「書写のかぎ」に示される学習のポイントやキーワードを基に、生徒が毛筆で書いて確かめたり、硬筆で書いて応用したりしながら学習を進めた後、単元末の「振り返ろう」で、言語活動が提案されるなど、工夫されている。</p> <p>○各単元の「振り返ろう」で、分かったことや考えたことを話し合ったり、自分が書いた字を説明したりする学習活動が用意されている。また、「生活に広げよう」として、学んだ内容を他の文字にどのような生かせばよいかを考えて書く活動が取り入れられているなど、知識及び技能の定着に留まらず、生徒が効果的・効率的に思考力、判断力、表現力等を身に付けられるようよく工夫されている。</p>	<p>○「この教科書の使い方」・小学校までの既習事項を整理することができる「学習のはじめに」、必修の学習内容を扱う「本編」、関係資料等が掲載される「資料編」の三部構成となっており、生徒が既習内容の振り返りや既習内容を基に、実践練習・応用等に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○学年末に活動することを想定した、「やってみよう」には、1年生「グループ新聞を作ろう」、2年生「情報誌を作ろう」、3年生「名言集を作ろう」という活動が提案されており、言語活動の中で生徒が習得した資質・能力を活用し、課題解決するよう工夫されている。</p> <p>○各単元「書き方を学ぼう」で、その学習で生徒が着目すべき書き方のポイントや内容が、ひと目で分かるよう構成が工夫されており、「書いて身につけよう」で学習したことを、主体的に活用する力を付け、効果的に思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元の「考えよう」から「生かそう」へとつながる学びの中で、身に付けた知識及び技能が他の文字でどのように応用できるかが示されており、生徒が自らの学びをどう活用していくのか意識できるよう工夫されている。</p> <p>○まず「試し書き」として学習の前段階においての文字を書き、その上で、教科書の文字と比べて、字形や筆順等を確認するなど、生徒が課題を発見したり、気付きを得たりすることにつながるよう構成が工夫されている。また、書写で身に付けた力を言語活動で生かせるよう、本の帯やポップ、ポスター、案内状などを書く手順や例を挙げた設ページが設けられている。</p> <p>○3年生の終わりには、自分で課題を選択する単元が設定されており、また、1、2年生では、筆使いや書き方等の学習で気付いたことを記入する欄が設けられるなど、目的意識や相手意識をもって思考・表現することが促されているなど、生徒が思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭に「中学書写スタートブック」として、小学校の学習内容がまとめられているとともに、新たな学習事項である行書が視覚的にも分かりやすいように「行書スイッチ」として特徴が示されている。また、全ての単元で学習内容と活動の流れが分かりやすく示されており、学習のポイントがひと目で分かる「学びのカギ」が設定されるなど、生徒が学習に取り組みやすいよう工夫されている。</p> <p>○各単元に用意されている「考えよう」では、何について考えるのか、特設の「コラム」では、どのようなことについて話し合うのかなど、生徒が取り組みやすいよう、言語活動のヒントが具体的に提示されており、言語活動の充実が図りやすいよう工夫されている。</p> <p>○各単元が「考えよう」「確かめよう」「生かそう」というひと目で分かる構成で統一されている。特に、「考えよう」では、話し合い活動等が提案されるなど、知識及び技能の定着はもとより、文字の原理原則について考えたり、表現したりする活動や振り返り活動を通して、生徒が段階的に思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫されており、優れている。</p>	

【選定の観点3】

生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
	<p>○各単元の「見つけよう」で、作品比較による気付きや、具体的な指示による問題発見などを示した上で、適宜設定される特設コラム「生活に広げよう」では、設定された場面ごとに書写の学びを生かして考える活動やさらに調べたり追究したりする活動例が示されており、生徒が探究意欲を高められるよう工夫されている。また、書写で学習したことを国語や他教科でどのように生かすか話し合う活動が設定されているなど、対話的に学ぶための工夫がされており、優れている。</p> <p>○巻末の「書写活用ブック」で、書写で得た学びを日常生活や社会でも活用できるような資料が豊富に掲載されており、生徒の興味を高めながら、発展的に課題に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○課題に対する取り組み方を話し合う生徒イラストでは、「個別最適な学び」、「協働的な学び」につながるよう吹き出しで促しており、生徒が主体的に選んで学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○適宜設定されるコラムでは、活字と手書き文字の筆順の違いや文字の変遷などが取り上げられており、生徒が書写で習得したことをさらに活用し探究的に考えることにつながるよう工夫されている。また、生徒が見通しをもって学習を進められるよう各単元の学習の流れが共通しており、主体的な学びが促されている。また、話し合いの課題が学年末に設定されており、どのようなことについて考え、話し合うのが具体的に示されるなど、対話的な学びに取り組みやすいよう工夫されている。</p> <p>○巻末の「資料編」では、「発展」と題して、高校で取り扱う内容が取り上げられている。また、便箋や時候の挨拶などの日常の書式や文房四宝や毛筆の補充単元等が用意されており、生徒が発展的に学び、書写を将来に生かす意識を高められるよう工夫されている。</p> <p>○文字の特徴について、キャラクターイラストの会話による話し合いの例が示されるなど、生徒が「協働的な学び」のイメージをもつことができるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元の「考えよう」で、作品比較による気付きや、具体的な指示による問題発見などを示した上で、適宜設定されるコラムでは、文字や活字の変遷や高校書道につながる書などが取り上げられており、生徒が書写で習得したことをさらに活用し探究的に考えることにつながるよう工夫されている。また、各単元で、「試し書き」から「振り返ろう」まで学習の流れが共通しており、適宜、学習用語を用いた話し合い活動や、話し合いの観点が示されるなど、生徒が主体的・対話的な学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>○適宜「発展」と題したコラムで、高校で取り扱う内容が取り上げられている。また、巻末には、日常の書式や書写テスト、補充単元等が用意されており、生徒が発展的に学べるよう工夫されている。</p> <p>○「書写で身につけた力を、学習活動で活用しよう」では、ICT機器と手書きの選択について投げかけがされている。また、協働的な学習の場面での書写の活用方法について具体例を示す工夫がされている。</p>	<p>○各単元の「考えよう」で、作品比較による気付きや、具体的な指示による問題発見などを示した上で、コラムや国語科と関連した学習が提案される「国語」等で、身近なUD書体を紹介するなど、生徒の興味を引き、生徒が探究的に学習に取り組めるよう工夫されている。また、どの単元も「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の三段階で学習がデザインされており、見通しをもちやすいよう工夫されている。さらに、話し合いの課題が適宜設定されており、どのようなことについて考え、話し合うのが具体的に示されるなど、対話的な学びに取り組みやすいよう工夫されており、優れている。</p> <p>○巻末に「発展」として、高校の書道につながる「王羲之」の書が取り上げられている。また、日常に役立つ書式や書写テスト、「おくのほそ道」等が題材として用意されるなど、生徒が発展的に学べるよう工夫されている。</p> <p>○巻頭の「スタートブック」において、ICT機器を使う姿勢についての写真が掲載されているほか、巻末の「通信文を見てみよう」では、メールやプレゼンテーションといったICT機器にまで書写の視点を取り入れる構成となっており、優れている。</p>

【選定の観点4】

生徒が我が国の伝統的な文字文化を継承し、日常生活や社会における書写の役割に気付き、多様な文字文化を大切にしようとする態度を身に付けられるような単元や活動が適切に取り上げられていること。

発行者名	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
	<p>○各学年に設定される「文字といっしょに」では、文字の成り立ちや移り変わり、書き初め、書の古典を扱った発展的な内容など、文字文化に親しむための単元やコラムが豊富に掲載されており、生徒が文字文化の担い手であることを意識できるように工夫されている。また、書写の用具・用材について名産地や作成工程が解説と共に掲載されており、生徒が我が国の多様な文字文化を大切にしようとする態度を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○巻末の「書写活用ブック」では、手紙、はがきの書き方に加え、時候の挨拶、ポスター、入学願書や送り状、のし袋、原稿用紙など、多様な実例が紹介されており、書写の学びを日常生活に役立てるよう工夫されている。</p>	<p>○3年生単元「身のまわりの文字」では、文字文化の変遷をたどることや、効果的に文字を書くことの重要性を考えることができる内容となっている。また、文字を扱う仕事も紹介しており、文字が生活や職業としても大きな役割を果たしていることに気付くことができるよう構成されている。さらに、「資料編」では書写の用具・用材についても紹介されており、生徒が我が国の多様な文字文化を大切にしようとする態度を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○巻末の資料編では、手紙やはがきの書き方に加え、入学願書や送り状、のし袋、原稿用紙など多様な実例が紹介されており、書写の学びを日常生活に役立てるよう工夫されている。</p>	<p>○1年生のコラム「文字の変遷」では、字体が変化する過程や、その字体を用いた事物を探す活動が設定されているとともに、2年生では、短冊・色紙など紙の形の名称や、日本建築と書の関係性、3年生では書の古典を扱った発展的なコラムがあり、伝統的な文字文化を中心に、書が生活や社会の中で果たす役割に気付けるよう工夫されている。また、書写の用具・用材についての作成工程が解説と共に掲載されており、生徒が我が国の多様な文字文化を大切にしようとする態度を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○巻末の「書式の教室」では、手紙やはがきの書き方に加え、入学願書や面接シート、送り状、のし袋、原稿用紙などに加えて、電子メール、エアメールの書き方についても扱い、多様な実例が紹介されており、書写の学びを日常生活に役立てるよう工夫されている。</p>	<p>○1年生のコラム「文字の歴史を探る」では、字体が変化する過程や、その字体を用いた事物を探す活動が設定されている。また、身近にある書体や様々な書体を紹介する3年生の「全国文字マップ」、手書きのよさについて話し合う場面の設定、UDフォントについても大きく取り扱っており、文字の使い分けや印象・役割を考え、文字文化が日々進化し日常に生かされていることなど、生徒が多様な文字文化を感じ取れるようよく工夫されている。さらに、書写の用具・用材についても掲載されており、生徒が我が国の多様な文字文化を大切にしようとする態度を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○「日常に役立つ書式」として一章が設けられており、手紙やはがきの書き方に加え、入学願書や送り状、原稿用紙など多様な実例が紹介されており、書写の学びを日常生活に役立てるよう工夫されている。また、メールやプレゼンテーション、タッチペンでの署名、デジタル付箋といった、デジタルの文字文化についても例を示すだけでなく、赤字でポイントを示している点が優れている。</p>



【選定の観点5】

毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるとともに、単元内容や構成等が国語の学習とも関連付けられるなどの工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
	<p>○硬筆学習は、毛筆学習と連動して設定されており、「見つけよう」「生かそう」や書体のまとめ活動等において、硬筆学習の課題が設定されるなど、生徒が毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるよう工夫されている。</p> <p>○本のポップ作成や手紙の書き方、国語科の教科書と関連した現代文や古文のなぞり書き、書写テストなど、国語科の学習と関連付けた課題が硬筆学習を中心に設定されており、書写での学びを広げられるよう工夫されている。また、国語科を含む、他教科との関連を示すマークも記載されており、書写で習得した力をどのように生かすかが明確になるよう工夫されている。</p>	<p>○毛筆学習の後に硬筆学習の課題が設定されており、また、「書いて身につけよう」として、生徒が毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるよう工夫されている。</p> <p>○手紙の書き方、国語科の教科書と関連した現代文や古文の書写、書写テストなど、国語科の学習と関連付けた課題が硬筆学習を中心に設定されており、書写での学びを広げられるよう工夫されている。また、学年末に配置されている「やってみよう」は、国語科の学年末の単元との関連が図られており、工夫されている。</p>	<p>○各単元の「試し書き」から「生かそう」につながる学習の流れの中で、硬筆学習の課題として書体の特徴の確認等が設定されており、また、「学習を生かして書く」として、生徒が毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるよう工夫されている。</p> <p>○本のポップ作成や手紙の書き方、国語科の教科書と関連した現代文や古文の書写、書写テストなど、国語科の学習と関連付けた課題が硬筆学習を中心に設定されている。また、国語科のノートの記述例を示すなど、書写での学びを広げられるよう工夫されている。</p>	<p>○別冊として、硬筆学習の学びを深めるための「書写ブック」が用意されており、また、各単元の「生かそう」にも、硬筆学習の課題が設定されるなど、生徒が毛筆学習の成果を硬筆学習に生かすことができるよう工夫されている。</p> <p>○本のポップ作成や手紙の書き方、国語科の教科書と関連した現代文や古文の書写、書写テストなど、国語科の学習と関連付けた課題が硬筆学習を中心に設定されており、書写での学びを広げる工夫がなされている。また、国語科を含む、他教科との関連を示すマークが記載されており、書写で習得した力をどのように生かすかが明確になるよう工夫されている。さらに、「言葉を書こう」や「季節のしおり」で取り上げられる文章は多彩であると共に、国語科の教科書本文との関連が図られており、優れている。</p>

【選定の観点6】

生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。

発行者名	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
<p>○手紙を書く活動は、職場体験でお世話になった方を想定し、感謝の気持ちなどを示すものとなっている。また、取材相手へのお礼状も例示されており、その中で外国人観光客への配慮を取り上げることで、様々な立場の人の人権尊重を想起させるものになっている。さらに、ポスターを書く活動では、バリアフリーを題材に取り上げることで、合理的配慮について考えを深められるよう工夫されている。また、生活に書写を広げる例として、防災を取り上げることで、人々のつながりや命の大切さについて考えを深められるよう工夫されている。</p> <p>○「豊かな自然」「平和の祈り」「感謝する心」など、生徒にとって、自然や平和、人間性を意識しながら、道徳性の育成につながる言葉が単元文字として使用されるなど、工夫されている。</p>	<p>○「情報誌を作ろう」では、郷土料理を紹介する文章を例とすることで、地域社会とのつながりの中でよりよく生きることへの考えを深められるよう工夫されている。また、「名言集を作ろう」では、先人の言葉を味わい、書くことで、よりよい生き方についての考えを形にできるよう工夫されている。文字に関わる多様な仕事が紹介されており、生徒が人々の生き方や働くことの意義について、考えを深められるよう工夫されている。また、手紙を書く活動は、職場体験でお世話になった方を想定し、感謝の気持ちなどを示すものとなっている。</p> <p>○「風の音を聞く」「輝く生命」「平和の鐘」「山光澄我心」など、生徒にとって、自然や生命を意識しながら、道徳性の育成につながる言葉が単元文字として使用されるなど、工夫されている。</p>	<p>○コラム「あの人が残した文字」では、歴史上の人物が残した言葉や文字が掲載されており、生徒が人としての生き方やよりよく生きることへの考えを深められるよう工夫されている。また、手紙を書く活動は、職場体験でお世話になった方を想定し、感謝の気持ちなどを示すものとなっている。さらに、手紙の書き方では、エアメールを題材に取り上げることで、他国との関わりを意識した学習活動が工夫されている。「活字について知ろう」では、UDフォントについて説明されており、文字の見え方への配慮について学べるよう工夫されている。</p> <p>○「美しい自然」「平和」「生命の尊重」「環境を守る」など、生徒にとって、自然や平和、生命を意識しながら、道徳性の育成につながる言葉が単元文字として使用されるなど、工夫されている。</p>	<p>○コラム「自分らしい文字」では、著名人が残した言葉や文字が掲載されており、生徒が人としての生き方やよりよく生きることへの考えを深められるよう工夫されている。また、「ユニバーサルデザインフォントって何だろう」では、文字の見え方にも多様性があること、あらゆる人々にとって見やすい書体が解説されるなど、生徒が万人にとっての文字のあり方について考えを深められるよう工夫されている。さらに、他国にルーツをもつ生徒が書写に取り組む様子を写真で示すなど、多様な生徒が共に学ぶ姿を示している点が工夫されている。</p> <p>○「豊かな森」「輝ける未来」「伝統を守る」など、生徒にとって、自然や向上心、人間性を意識しながら、道徳性の育成につながる言葉が単元文字として使用されるなど、工夫されている。</p>	

【選定の観点7】

系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
<p>○各単元の「書写のかぎ」で、3年間で学ぶ知識及び技能が系統的に整理されており、生徒が各学年で重点的に学ぶ内容を意識化できるよう工夫されている。また、五十音表を、楷書と行書の両方で扱われている点や、「現代につながる文字の役割」で文字文化の変遷をたどるなど、生徒が学習内容の発展を実感できるよう工夫されている。</p> <p>○情報を整理したノートの書き方など、他教科の学習活動にも生かせる活動が設けられているとともに、他教科との関連がマークで示されるなど、他教科で書写を生かすことについて、生徒が意識しやすいよう工夫されている。また、防災やバリアフリーなど、現代的な諸課題に関する題材が複数取り上げられている。</p> <p>○巻頭に「これまで学んできたこと」が設けられ、小学校での学びを振り返るとともに、3年生には、高校書道で扱う古典作品や書道を学ぶ高校生の活動が紹介されるなど、小中高の円滑な接続に配慮されている。</p> <p>○単元「生活に広げよう」では、地域行事に参加する設定の単元があり、書写で学習したことが地域活動の中でどのように生かされているかを考えられるよう工夫されている。また、親族に宛てた手紙を書く場面について考えるなど、家庭・地域との連携に配慮されている。</p>	<p>○小学校までの既習事項を整理することができる「学習のはじめに」、必修の学習内容を扱う「本編」、関係資料等が掲載される「資料編」の三部構成で、知識及び技能が系統的に整理されている。また、「いろは歌」を楷書と行書の両方で扱うことで、学習内容の発展を実感できるよう工夫されている。また、「身のまわりの文字」では生活の中の文字文化に目を向けることができるよう工夫されている。</p> <p>○学校行事に関連した作例や、横書きの行の整え方、などは扱われているが、他教科の学習とのつながりが明確に見える題材や、防災やSDGsといった現代的な教育諸課題と関連づいた題材は扱われておらず、工夫としてはやや弱い。</p> <p>○「学習のはじめに」として姿勢や執筆のあり方を復習する課題が設けられている。3年生には、高校書道につながる中国古典や篆刻に関する資料、文字を通した表現活動に関する単元が用意されており、小中高の円滑な接続に配慮されている。</p> <p>○地域の魅力をまとめる活動「情報誌を作る」など、地域との連携に配慮されている。また、都道府県名のページでは、各地の名産品のイラストを掲載するなど工夫されている。</p>	<p>○3年間を通して書写で身に付ける力が、巻頭の特設ページ「書写をとおして学んでいくこと」でイラストを用いて示されており、学習の系統性を生徒がイメージできるよう工夫されている。また、「いろは歌」を楷書と行書の両方で扱うことで、学習内容の発展を実感できるよう工夫されている。3年生では「多様な表現による文字」として文字の表現効果にも目を向けられるよう工夫されている。</p> <p>○理科のレポートにおける情報を整理した書き方、社会科のノートの取り方の例の紹介、各都道府県の城跡、また、学校行事と書写の学習を関連させた作例など、生徒が書写の学びを他教科の学習に生かせるよう工夫されている。また、SDGsに関連した環境など、現代的な諸課題に関する題材が複数取り上げられている。</p> <p>○1年生の単元に小学校の学習内容を復習する課題が設けられている。また、「文字の変遷」や「書の古典の鑑賞」、「芸術として書道」が取り上げられているなど、小中高の円滑な接続に配慮されている。</p> <p>○ポスター作成を例に、地域の人々との関わりを想起させるものや親族への案内文例が取り上げられている。また、裏表紙に保護者へのメッセージが掲載されるなど、家庭・地域との連携に配慮されている。</p>	<p>○全ての単元で設定される「学びのカギ」や各章の国語科と関連させた単元などを通して、生徒が系統的・発展的に学習できるよう単元構成が工夫されている。また、「いろは歌」を楷書と行書の両方で扱うことで、学習内容の発展を実感できるよう工夫されている。3年生の単元では、「全国文字マップ」など文字が実社会でどのように使われているかを多様な題材で示している点が工夫されている。</p> <p>○学校行事に関連した作例や情報を整理したノートの書き方、デジタル付箋の例など、生徒が書写の学びを学校生活や他教科の学習にも生かせるよう工夫されている。また、防災やSDGsに関連した環境など、現代的な諸課題に関する題材が複数取り上げられている。</p> <p>○「中学書写スタートブック」には小学校の復習も含まれており、文字の変遷や中国古典に関連する単元等が取り上げられるなど、小中高の円滑な接続に配慮されている。</p> <p>○「全国文字マップ」で各都道府県の特徴的な文字を挙げ、自分の住む地域を想起させる工夫がされている。また、「手書きのよさって、何だろう」では、家族への手紙が例示されるなど、家庭・地域との連携に配慮されている。</p>	

【選定の観点8】

表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名			
2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
<p>○巻頭・巻末や教材中の挿し絵や写真、図やグラフなどは、学習内容の理解を助けるものとなっており、また、中学校で学習する漢字には、学習時期が定められていないことに配慮して、全て振り仮名が付けられるなど、配慮されている。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインに配慮されている。</p> <p>小さな文字には、ユニバーサルデザインフォント（UD書体）を使用すると共に、手書き文字の字形に近付けた書体を採用することで、生徒に見やすく読めるよう工夫されている。また、教材文字を上、書き込み欄を下に配置することで、右利きでも左利きでも教材文字が見やすく、書きやすいよう配慮がされているなど、優れている。</p> <p>○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。</p> <p>○再生紙や植物油インキが使用されている。</p>	<p>○巻頭・巻末や教材中の挿し絵や写真、図やグラフなどは、学習内容の理解を助けるものとなっており、また、中学校で学習する漢字には、学習時期が定められていないことに配慮して、全て振り仮名が付けられるなど、配慮されている。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインに配慮されている。</p> <p>また、本文中の重要な箇所が大きな文字や目立つフォントで書かれ、字間・行間も生徒の発達段階に配慮し、生徒にとって分かりやすく見やすく読めるよう工夫されている。</p> <p>○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。</p> <p>○環境に優しい紙や植物油インキが使用されている。</p>	<p>○巻頭・巻末や教材中の挿し絵や写真、図やグラフなどは、学習内容の理解を助けるものとなっており、また、中学校で学習する漢字には、学習時期が定められていないことに配慮して、全て振り仮名が付けられるなど、配慮されている。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォント（UD書体）などに配慮されている。</p> <p>また、左利きの生徒に配慮した毛筆用具の置き方も掲載されている。</p> <p>○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。</p> <p>○再生紙や植物油インキが使用されている。</p>	<p>○巻頭・巻末や教材中の挿し絵や写真、図やグラフなどは、学習内容の理解を助けるものとなっており、また、中学校で学習する漢字には、学習時期が定められていないことに配慮して、全て振り仮名が付けられるなど、配慮されている。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインに配慮されている。</p> <p>また、単元名、目次や小さな文字にはユニバーサルデザインフォント（UD書体）を用い、本文は教科書のためにデザインした独自の書き文字との差異が少ない書体を用いるなど、自然で見やすく、字詰め、行詰めも読みやすいよう工夫されている。</p> <p>○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。</p> <p>○環境に配慮した紙や植物油インキが使用されている。</p>